

2020年3月期決算 説明会資料 本編

代表取締役社長 最高経営責任者
石田 建昭

2020年5月15日

目 次

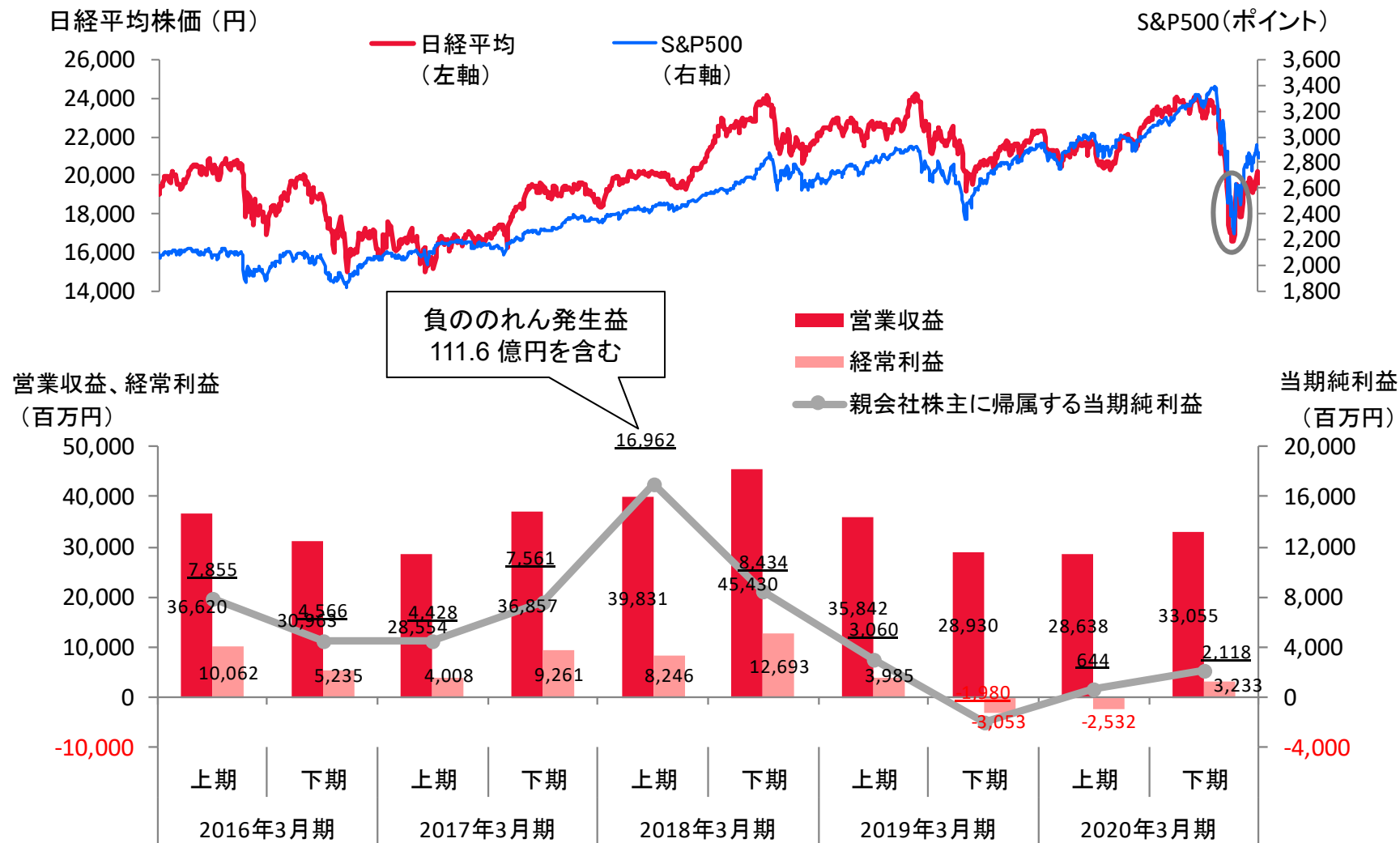
I. 業績概要	2
II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗	14
III. 戦略の推進	28

I. 業績概要

I. 業績概要

1. 業績推移

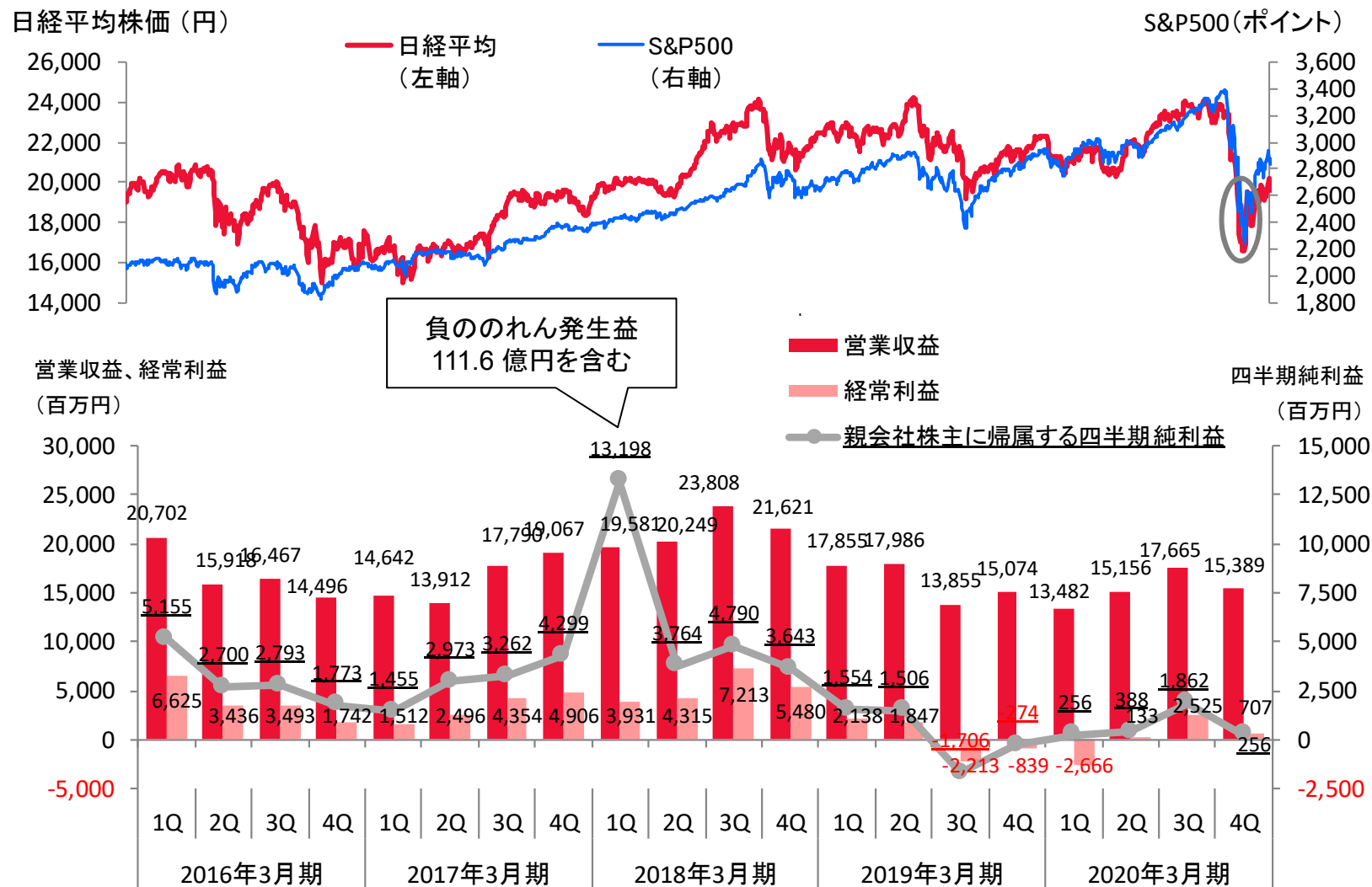
(連結) 半期ごと業績推移



I. 業績概要

1. 業績推移

(連結) 四半期ごと業績推移



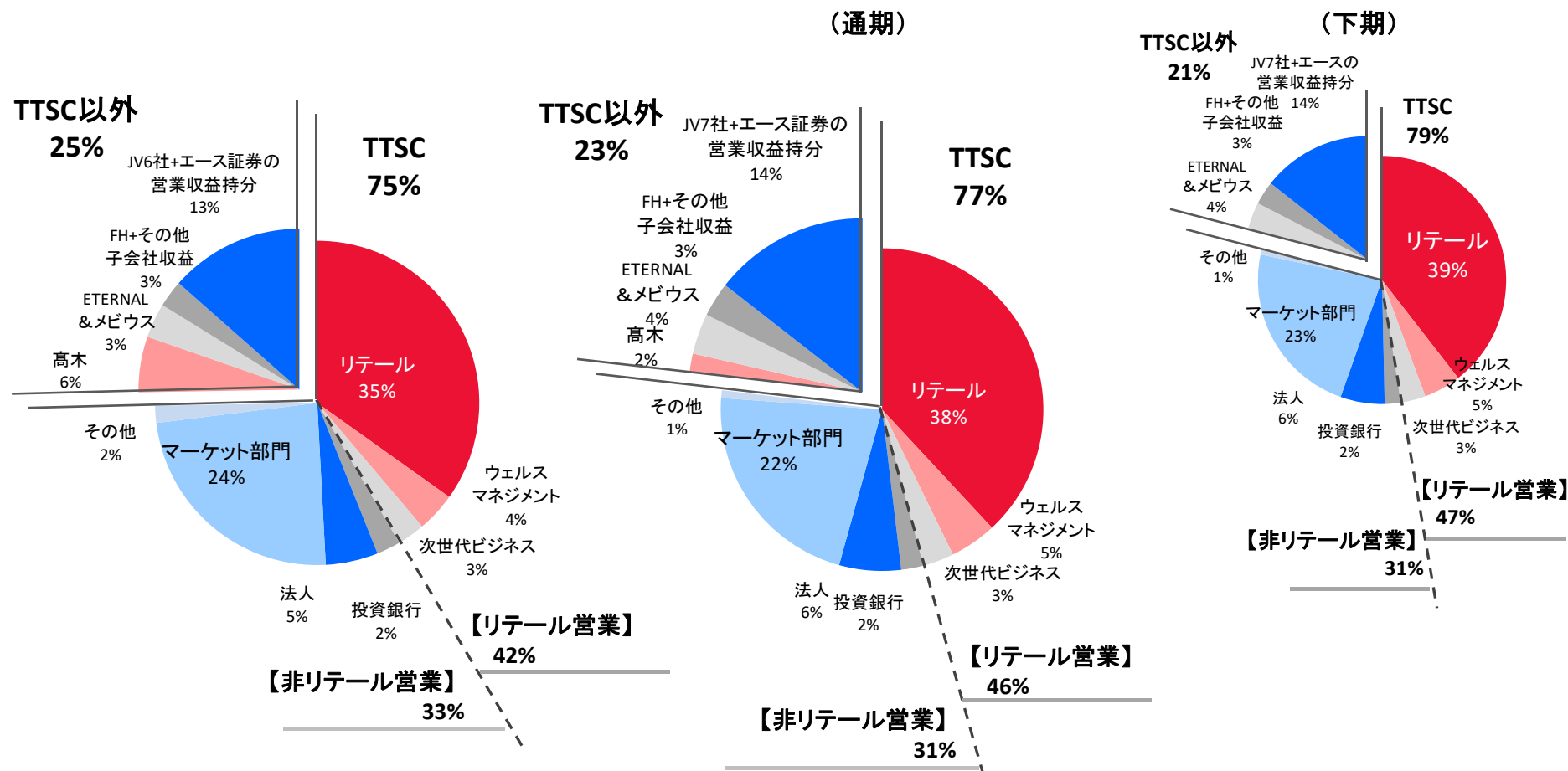
I. 業績概要

2. ビジネスの特徴と財務状況

《比例合算による営業収益イメージ》

<2019年3月期 連結営業収益64,772百万円>

<2020年3月期 連結営業収益61,694百万円>



※ 持分法適用会社(提携合弁証券およびエース証券)の収益を持分比率により合算することで、2019年3月期および2020年3月期における当社グループ損益の源泉のイメージを提示するものであり、企業会計上の連結損益計算書とは異なります。

I. 業績概要

3. 財務から見た特徴

《新型コロナウイルス感染拡大による業績影響》

<マイナス要因(3月)>

- ・東海東京証券の業績悪化
- ・投資ファンドの評価損計上
- ・JVの業績悪化～持分法損益の赤字～

<プラス要因(3月)>

- ・投資先からの配当収受
- ・市場・法人取引の拡大

各社の損益状況 (百万円)	2019年3月期					2020年3月期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1年計	1Q	2Q	3Q	4Q	(うち3月)	1年計
東海東京証券	1,598	1,650	-1,230	-1,012	1,005	-1,911	187	1,841	595	-390	713
提携合併証券(JV)	263	143	-36	-123	246	-33	-54	178	41	-125	131
東海東京グローバル・インベストメンツ(TTGI)	86	108	-617	344	-79	25	168	382	-395	-398	180
高木証券	-117	-270	-545	-498	-1,430	-497	-397	-	-	-	-894
その他	308	216	215	450	1,190	-250	229	124	466	388	570
連結経常損益 計	2,138	1,847	-2,213	-839	932	-2,666	133	2,525	707	-525	700

※ 東海東京証券
提携合併証券(JV)
東海東京グローバル・インベストメンツ(TTGI)
高木証券

経常損益
持分法損益
経常損益
経常損益

I. 業績概要

3. 財務から見た特徴

《東海東京証券の収益状況》

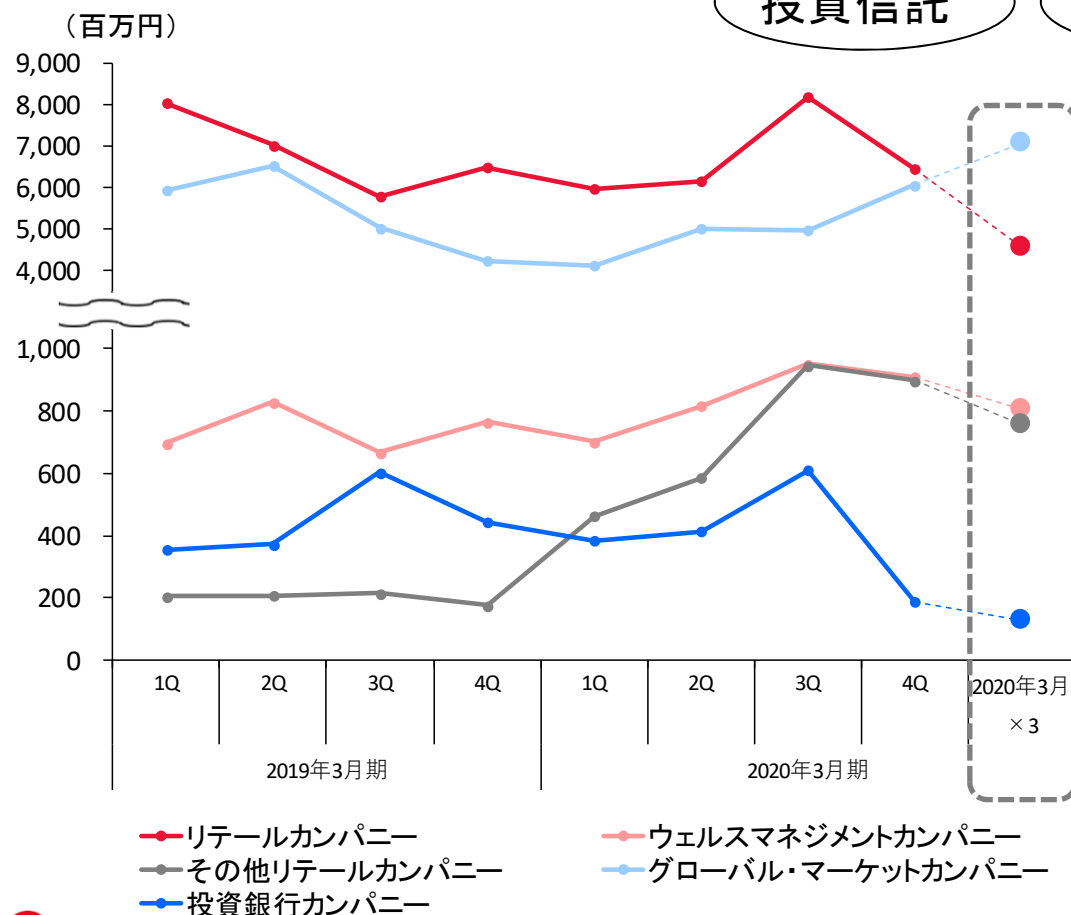
リテールビジネスの不振(3月)

*ウェルス、マルチチャネルを除く

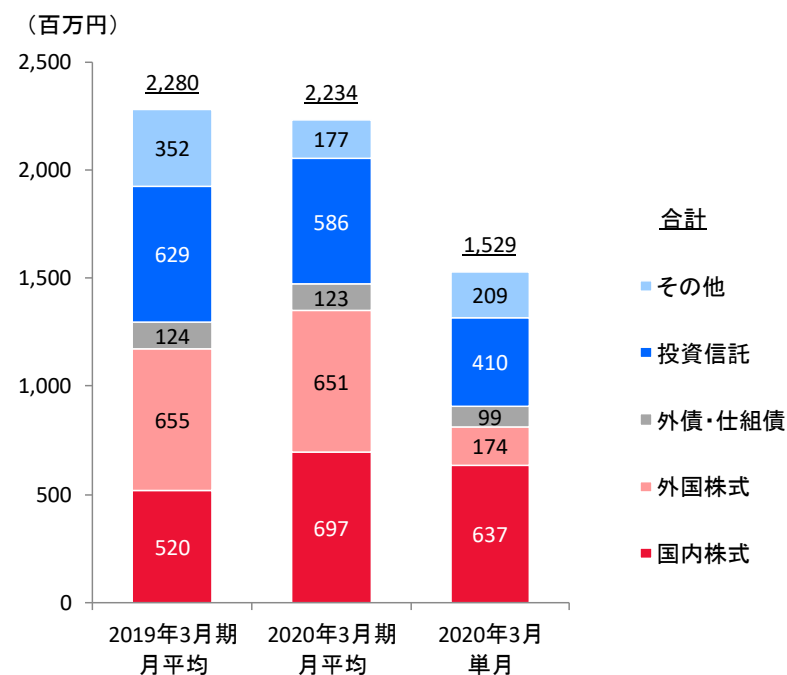
投資信託

外国株

仕組債



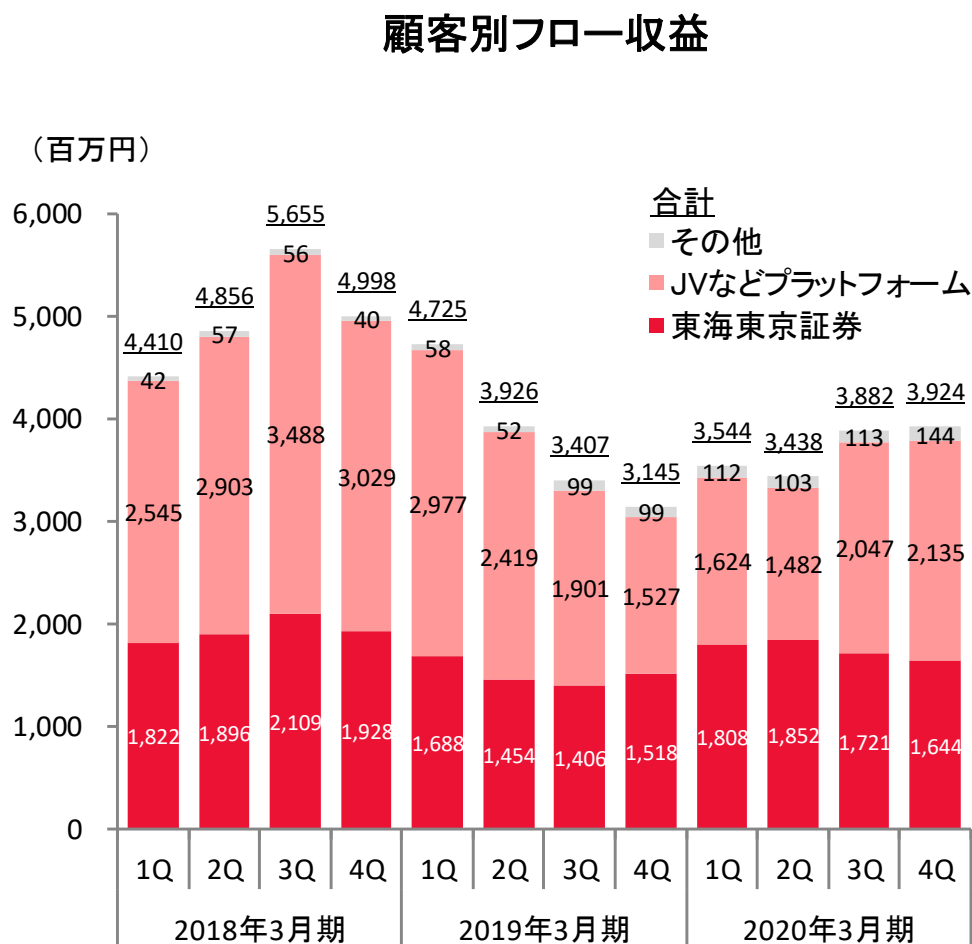
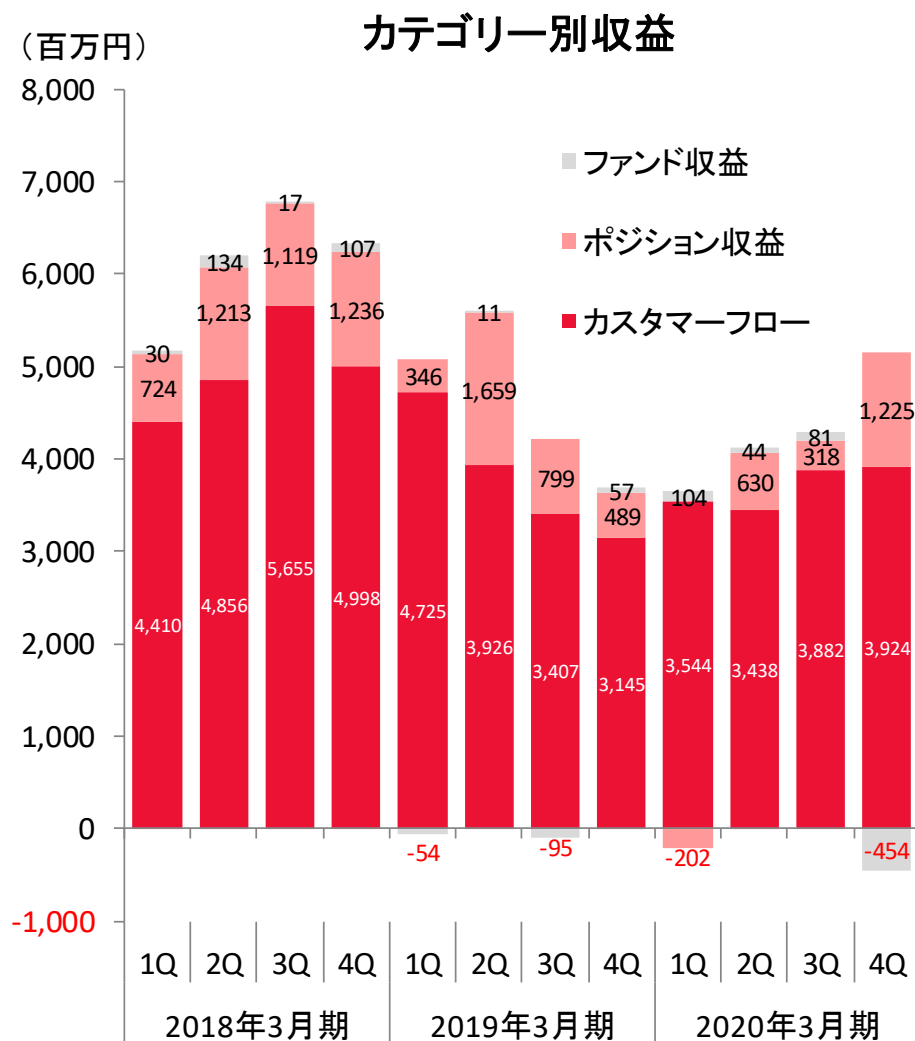
(ご参考)リテールカンパニー収益の商品構成



I. 業績概要

3. 財務から見た特徴

《マーケット部門の収益構成》



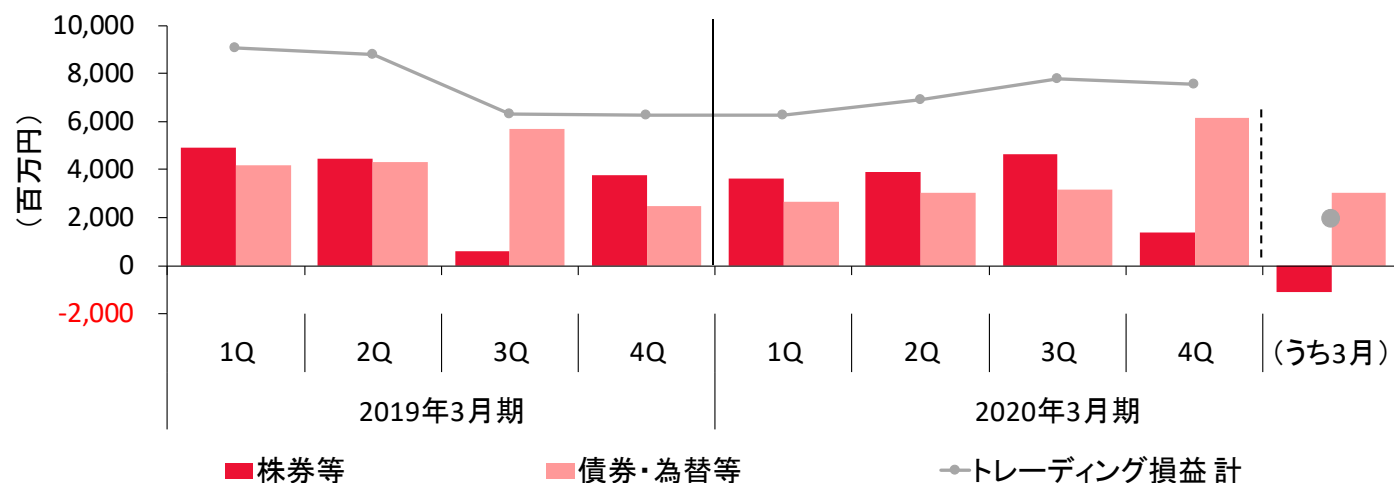
※ 管理会計上の調整金額を除いたフロー別の内訳

I. 業績概要

3. 財務から見た特徴

《(東海東京証券)トレーディング損益》

(百万円)	2019年3月期					2020年3月期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1年計	1Q	2Q	3Q	4Q	(うち3月)	1年計
株券等	4,893	4,471	622	3,768	13,756	3,607	3,892	4,618	1,394	-1,077	13,512
国内株式	-406	88	-1,440	587	-1,170	10	404	813	-1,519	-911	-291
外国株式	5,374	4,374	1,942	3,233	14,924	3,498	3,415	3,705	3,320	137	13,940
その他(ファンド等)	-74	9	120	-52	2	97	71	98	-406	-302	-137
債券・為替等	4,162	4,305	5,698	2,497	16,663	2,647	3,034	3,185	6,160	3,038	15,028
国債	551	1,517	-834	62	1,298	-399	86	156	632	482	475
公社債	255	-33	916	589	1,728	487	495	227	270	20	1,481
外国債券・為替・デリバティブ	2,824	2,598	3,727	2,537	11,686	2,419	2,768	3,170	2,701	810	11,060
エクイティスワップ	530	222	1,888	-692	1,949	140	-316	-368	2,555	1,725	2,009
トレーディング損益計	9,056	8,776	6,321	6,266	30,419	6,254	6,926	7,804	7,554	1,961	28,540

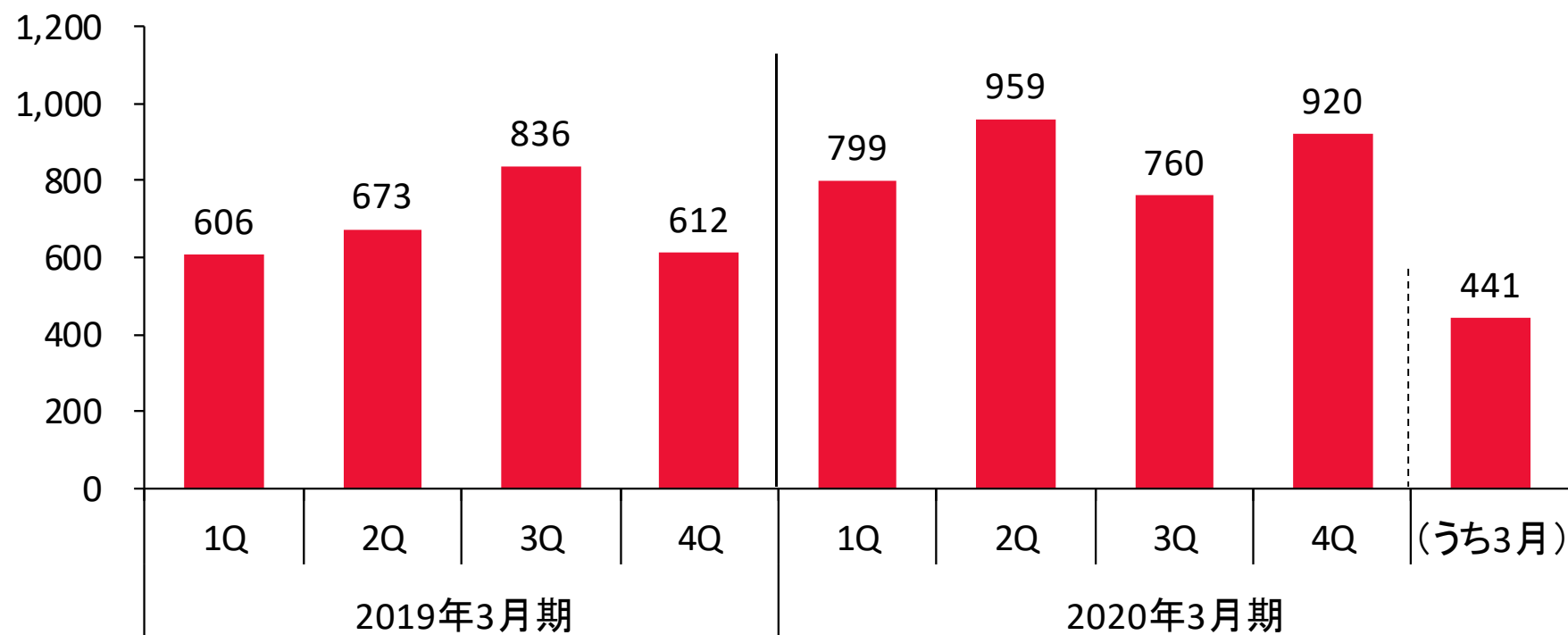


I. 業績概要

3. 財務から見た特徴

《法人部門収益の推移》

(百万円)

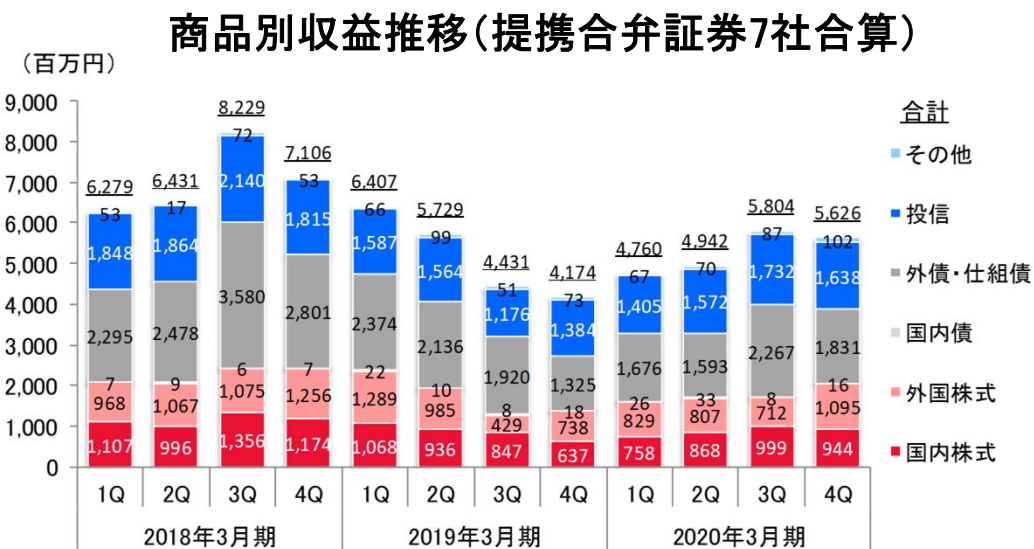
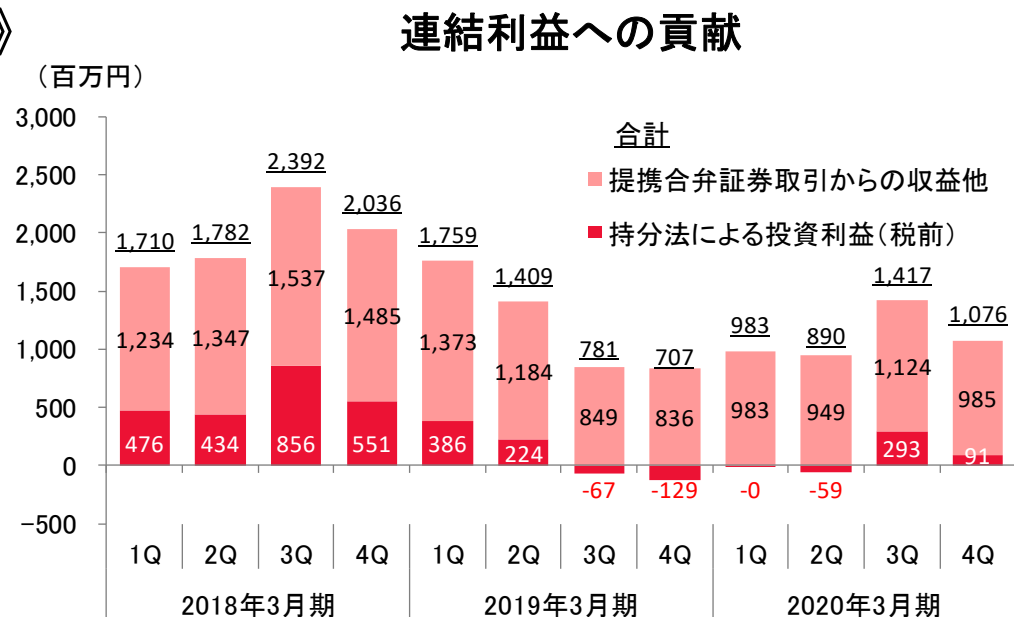
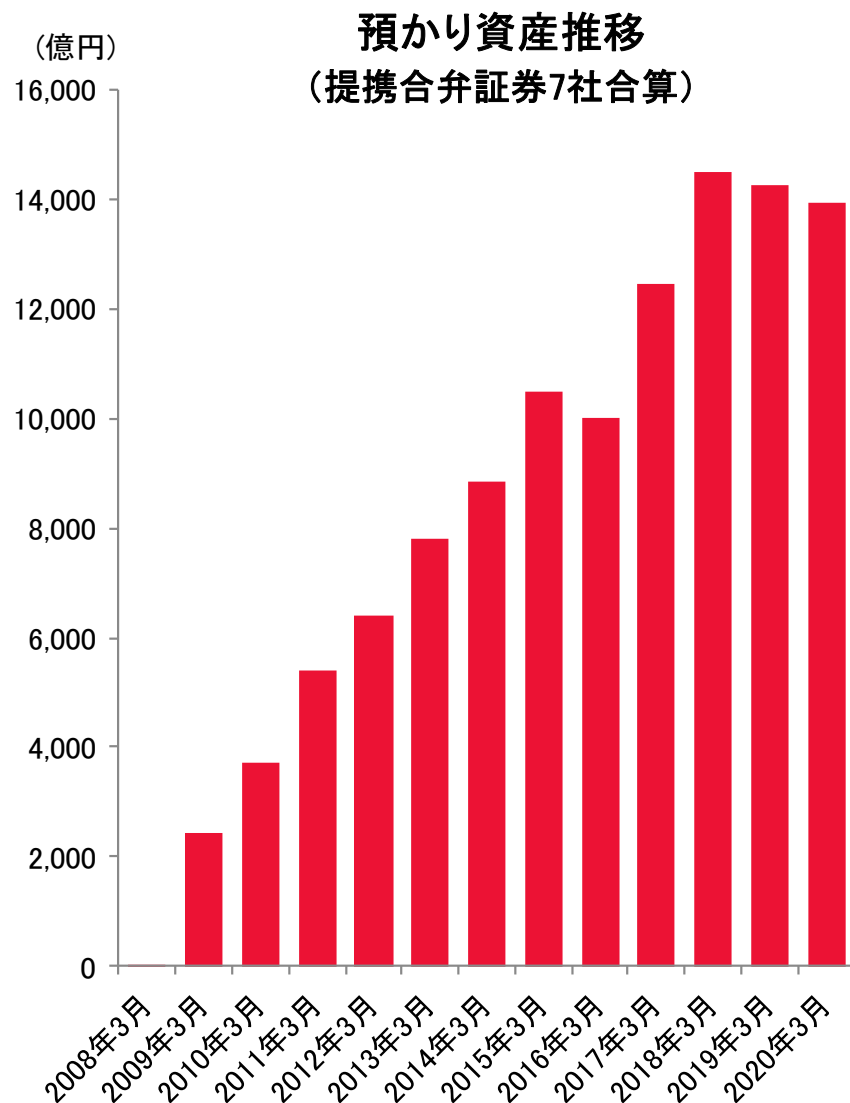


※ 2019年3月期2Qまで法人部門下だった機関投資家営業部を除く

I. 業績概要

3. 財務から見た特徴

《地方銀行との提携合併証券(JV)》



I. 業績概要

3. 財務から見た特徴

《(連結)販売費及び一般管理費》

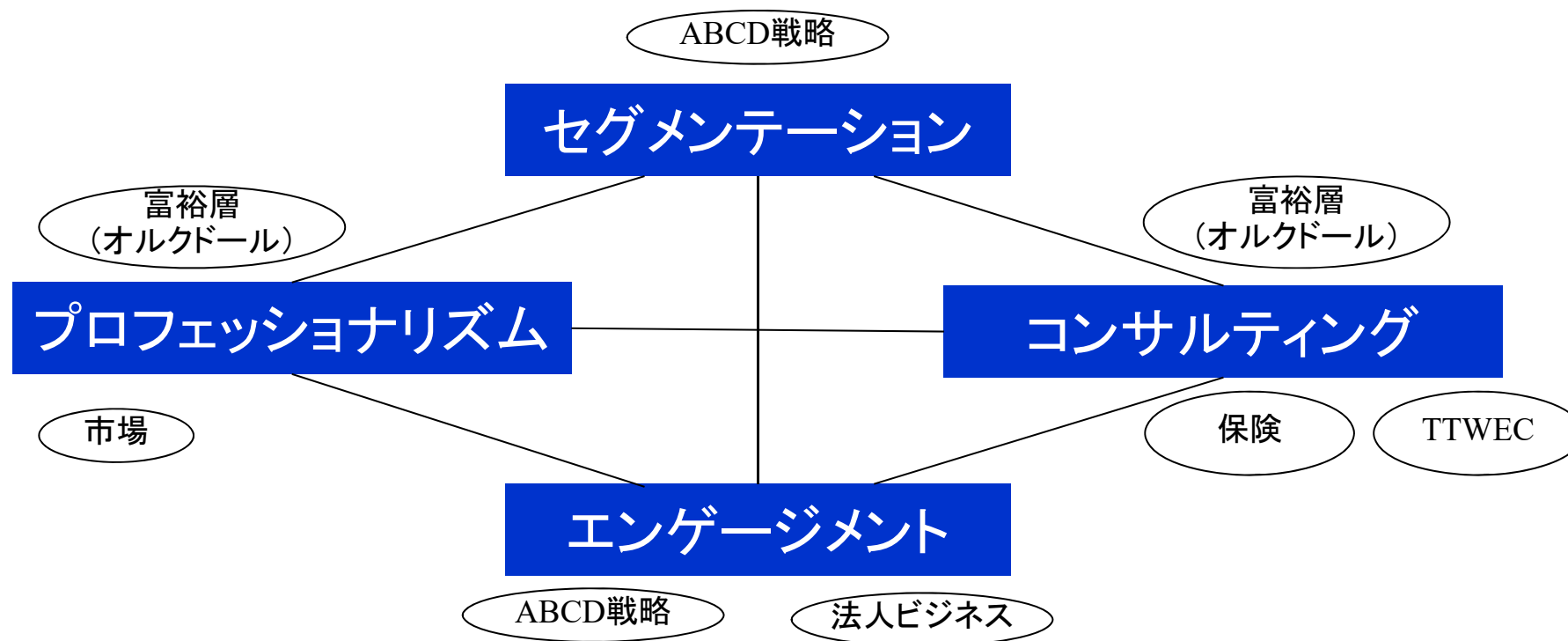
- ① 人件費…………… 高木証券の希望退職、JV出向などを主因とした減少
人事制度改革による一時的増加
- ② 不動産関係費… 旧オフィス賃料の支払いの終了に伴う減少
- ③ 事務費…………… 高木証券の合併によりシステム運営費を削減
- ④ 減価償却費…… 現オフィスの設備・器具の償却、高木証券の固定資産除却などによる増加
また、海外現法でリース会計基準が変更され、不動産関係費に計上していた1年分の家賃134百万円を4Qで減価償却に振替

(百万円)	2019年3月期					2020年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1年計	1Q	2Q	3Q	4Q	1年計
人件費	7,422	7,600	7,227	7,293	29,544	7,412	6,728	6,873	6,814	27,827
不動産関係費	1,766	1,933	1,989	2,156	7,845	2,089	1,814	1,903	1,775	7,717
事務費	1,945	2,016	1,980	2,051	7,994	1,883	2,047	1,879	1,705	7,516
減価償却費	532	540	584	664	2,321	715	773	801	936	3,092
うちシステム関連費	165	172	176	187	701	190	200	216	209	816
うち高木証券関連	4	10	14	15	45	19	33	-	-	52
その他	4,098	3,791	3,733	3,616	15,239	3,775	3,473	3,589	3,597	14,436
販売費・一般管理費 計	15,765	15,882	15,514	15,782	62,945	15,875	14,837	15,048	14,830	60,591

I. 業績概要

4. まとめ

《ハイレベルな収益構造への進化～ブローキングからの脱却》



《3月の市況混乱要因を補正した場合の2020年3月期年間利益(試算)》

$$\begin{aligned}\text{本来収益} &= \text{連結経常利益} + \text{TTGI 3月分損益} \times 0.8 + \text{ファンド3月分損益} \times 0.4 \\ &= 700\text{百万円} + 490\text{百万円} \\ &= 1,190\text{百万円}\end{aligned}$$

II. 収益構造の進化と重点プロジェクトの進捗

II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

マーケット部門
30億円プロジェクト

富裕層ビジネスの
推進

地方銀行との
提携合弁証券ビジネス

リテール分野の新戦略

コスト効率向上

次世代向け開発案件
(フィンテック案件)

グレート・プラットフォーム

II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

1. リテールのセグメンテーション戦略

《顧客セグメント別アプローチの効果》

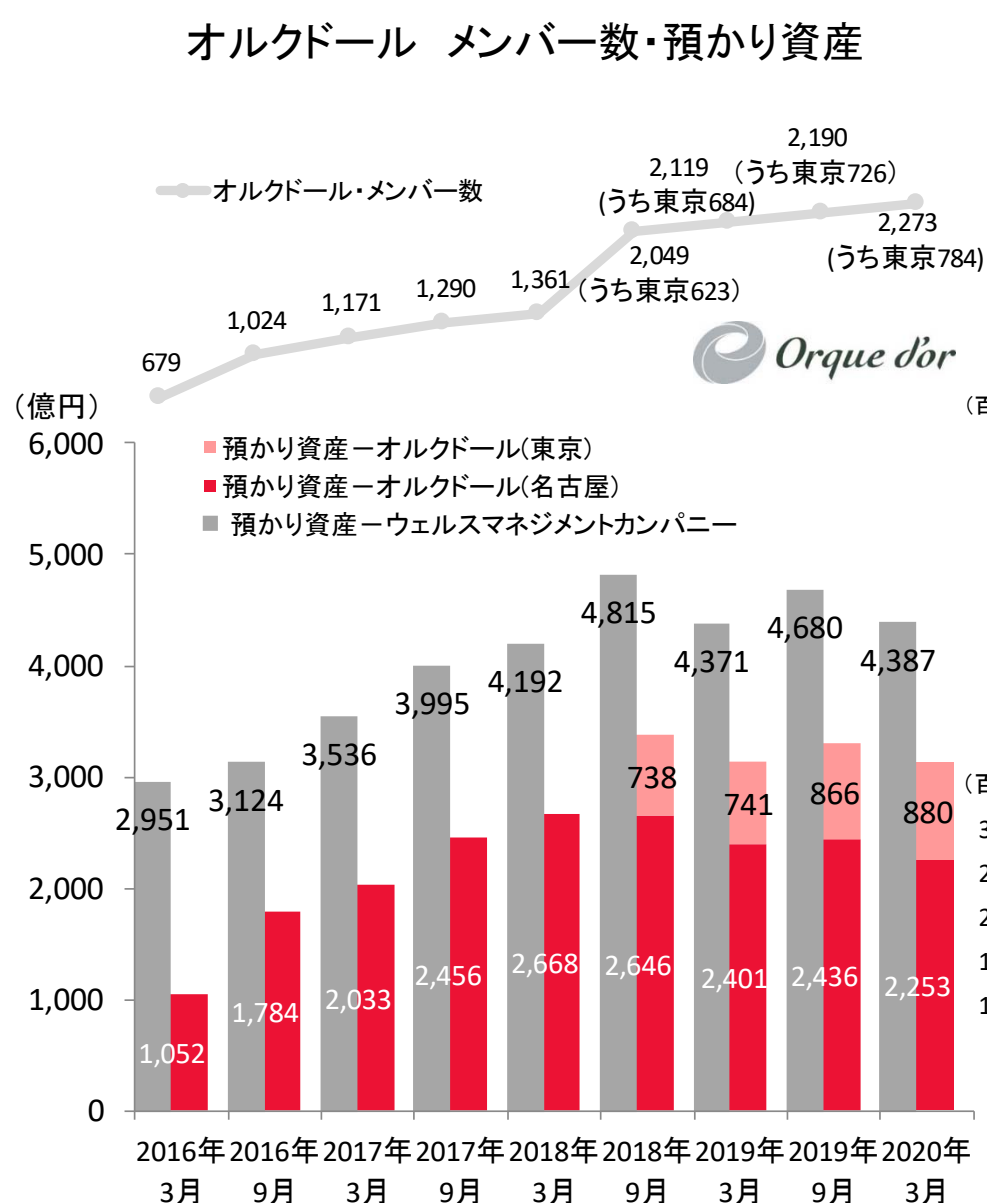
	預かり資産	稼働状況	2019/9末 口座数シェア	稼働口座増減率 (前半期比) 2020/3上期→下期	収益増減率 (前半期比) 2020/3上期→下期
A	1千万円以上	稼働	8.4%	－11.9%	＋3.8%
B	1千万円以上	未稼働	22.0%	＋29.3%	＋226.1%
C	1千万円未満	稼働	4.3%	－28.4%	－31.8%
D	1千万円未満	未稼働	65.3%	＋13.3%	＋90.3%
※セグメント定義の未稼働は半年間の手数料10万円未満					A~Dセグメント総収入 ＋16.7%

※稼働口座増減率の稼働とは手数料1円以上

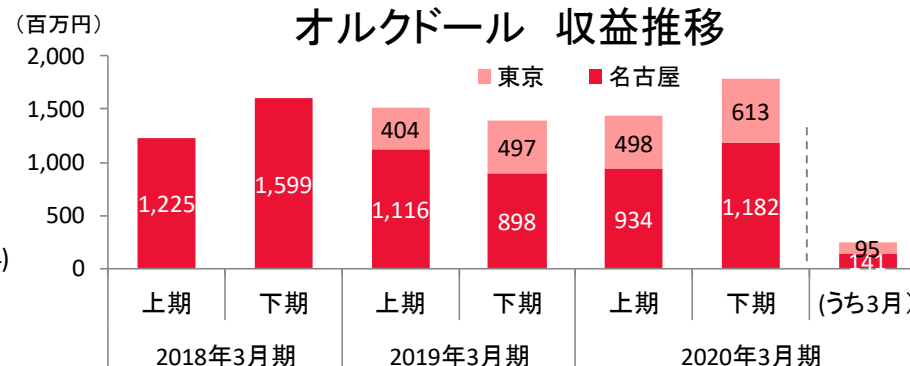
II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

2. 富裕層ビジネスの拡大

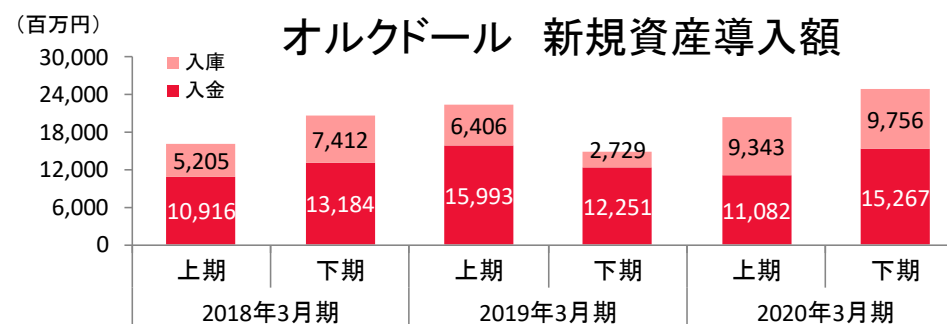
オルクドール メンバー数・預かり資産



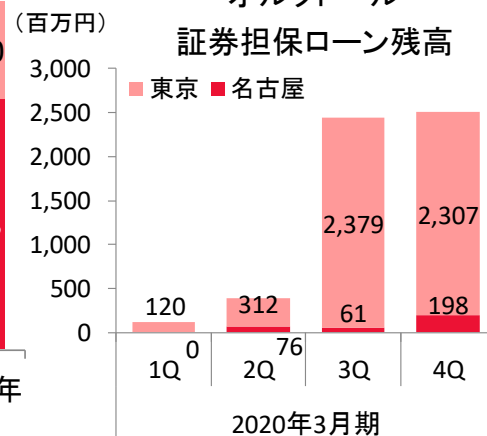
オルクドール 収益推移



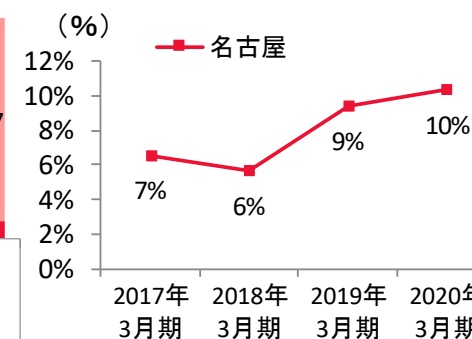
オルクドール 新規資産導入額



オルクドール
証券担保ローン残高

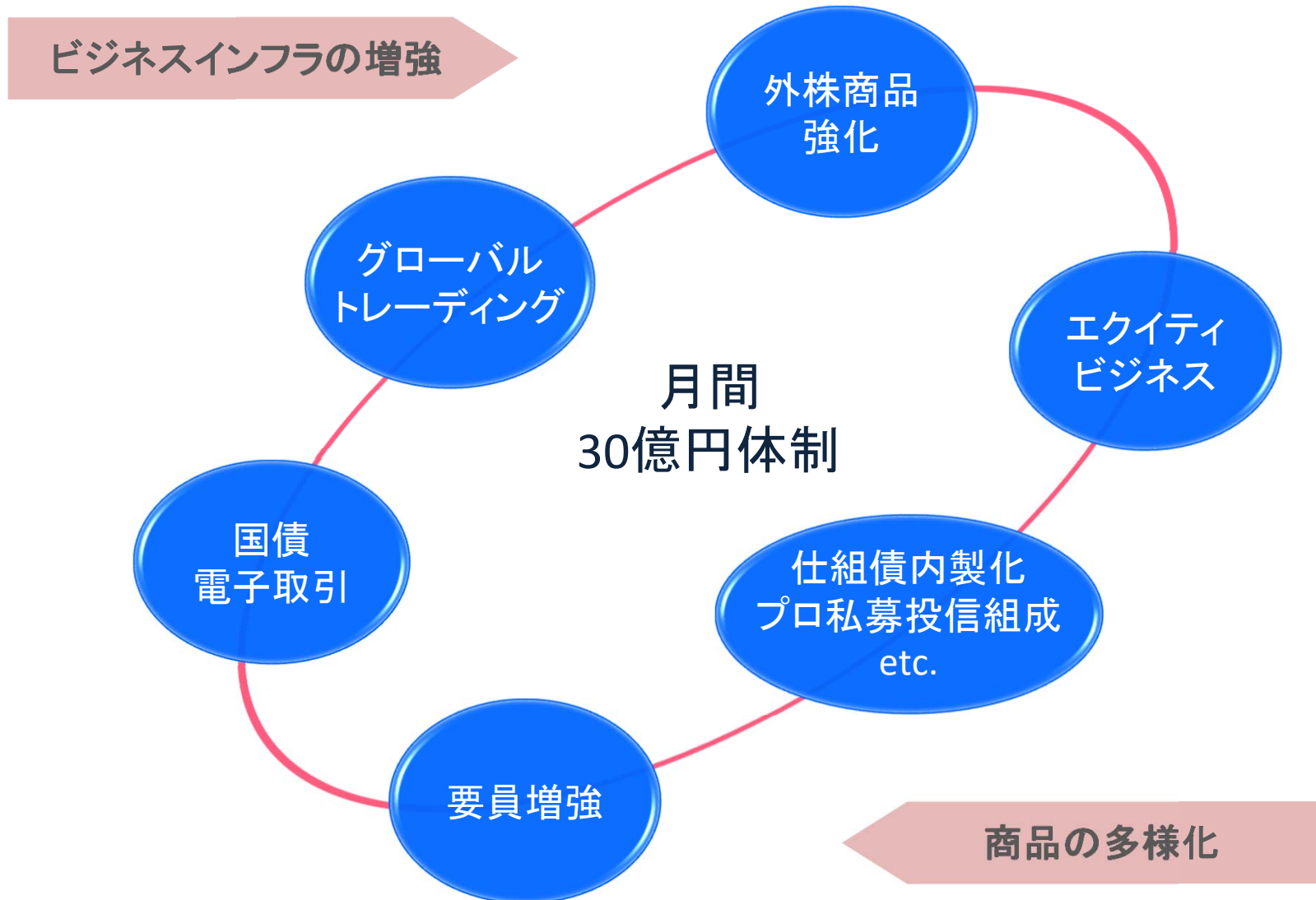


(ご参考)
ウェルスマネジメントカンパニー
ソリューション収益比率



II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

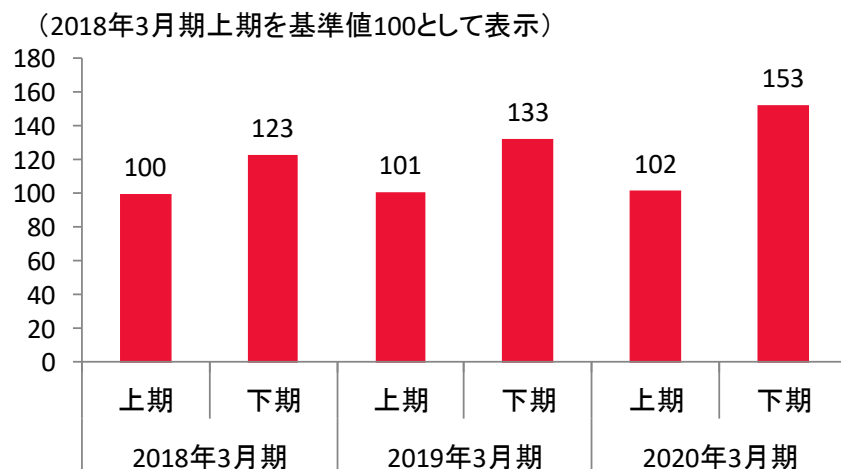
3. マーケット部門の進捗



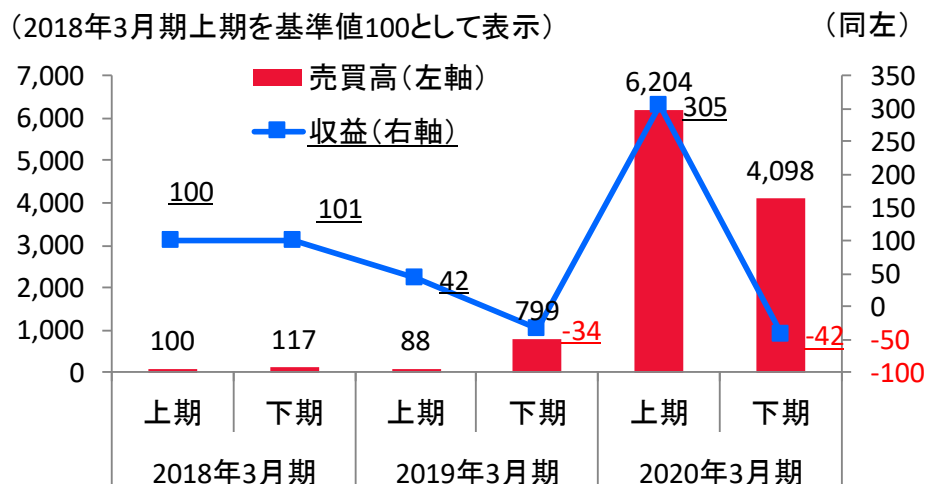
II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

3. マーケット部門の進捗

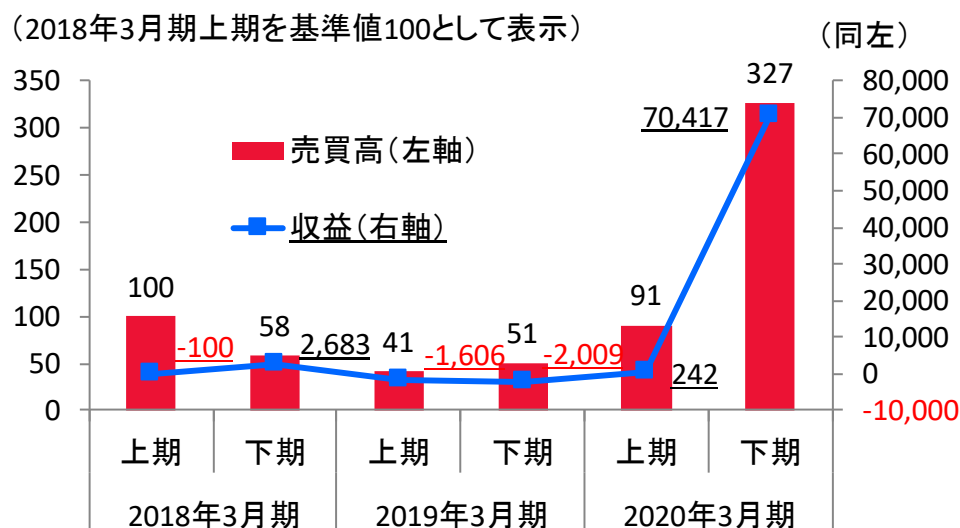
機関投資家営業部&エクイティ部 収益



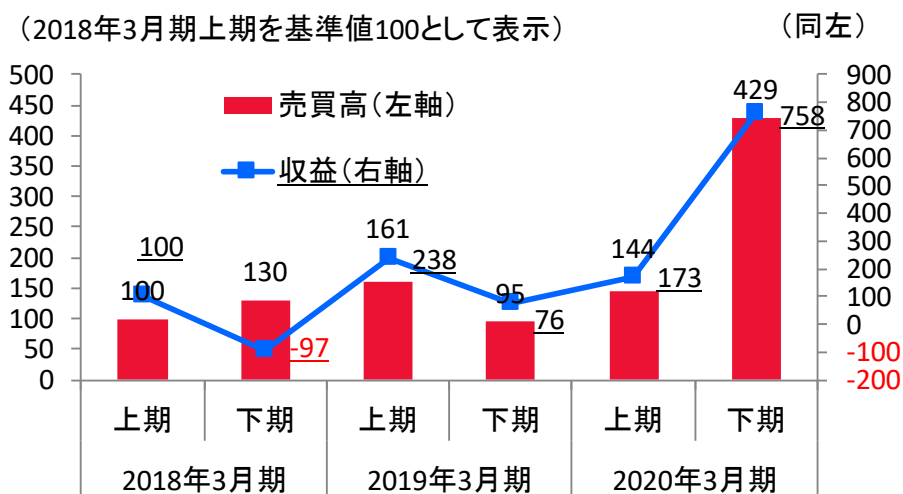
株式ブロックバスケット取引



株式インデックス取引



株式VWAP取引

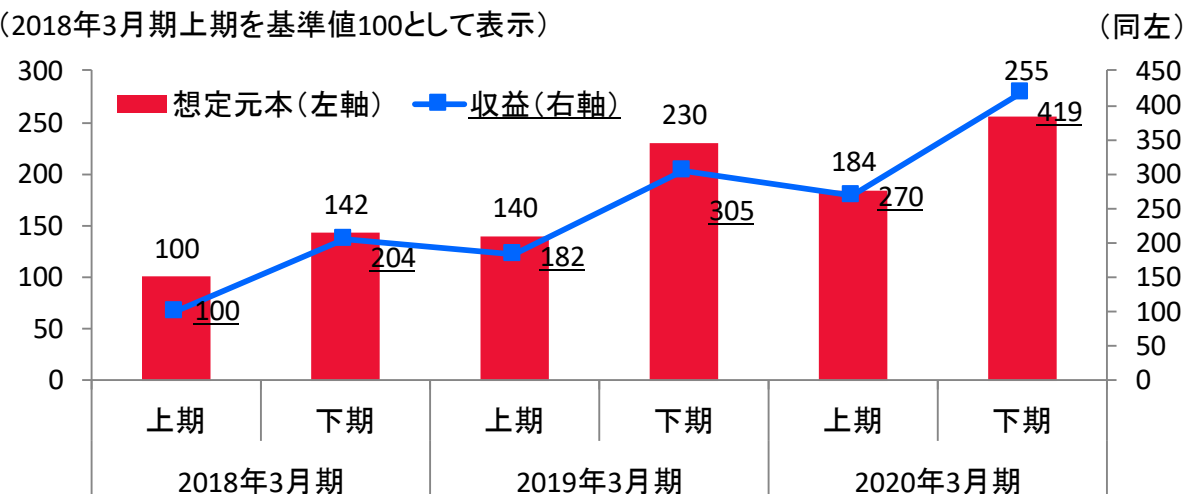


II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

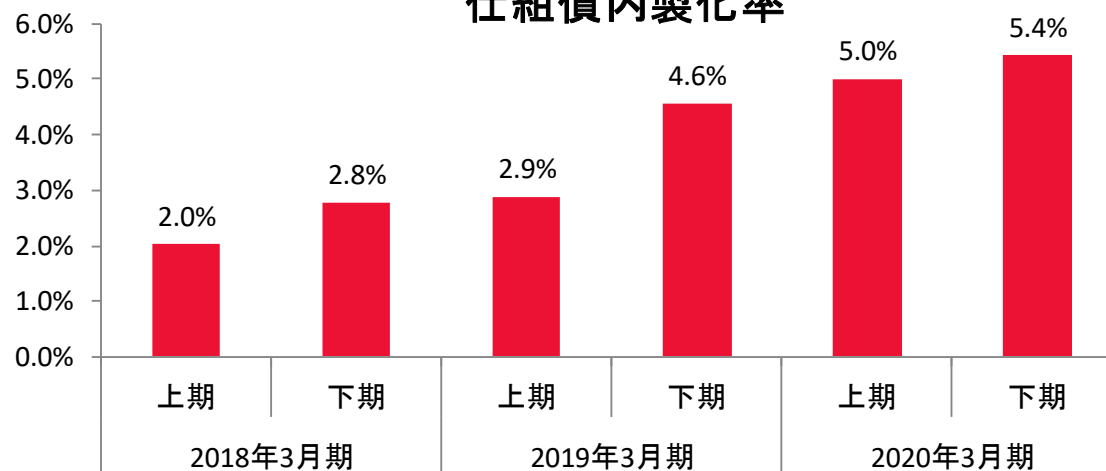
3. マーケット部門の進捗

金利為替デリバティブ取引

(2018年3月期上期を基準値100として表示)



仕組債内製化率



II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

4. 提携合併証券(JV)

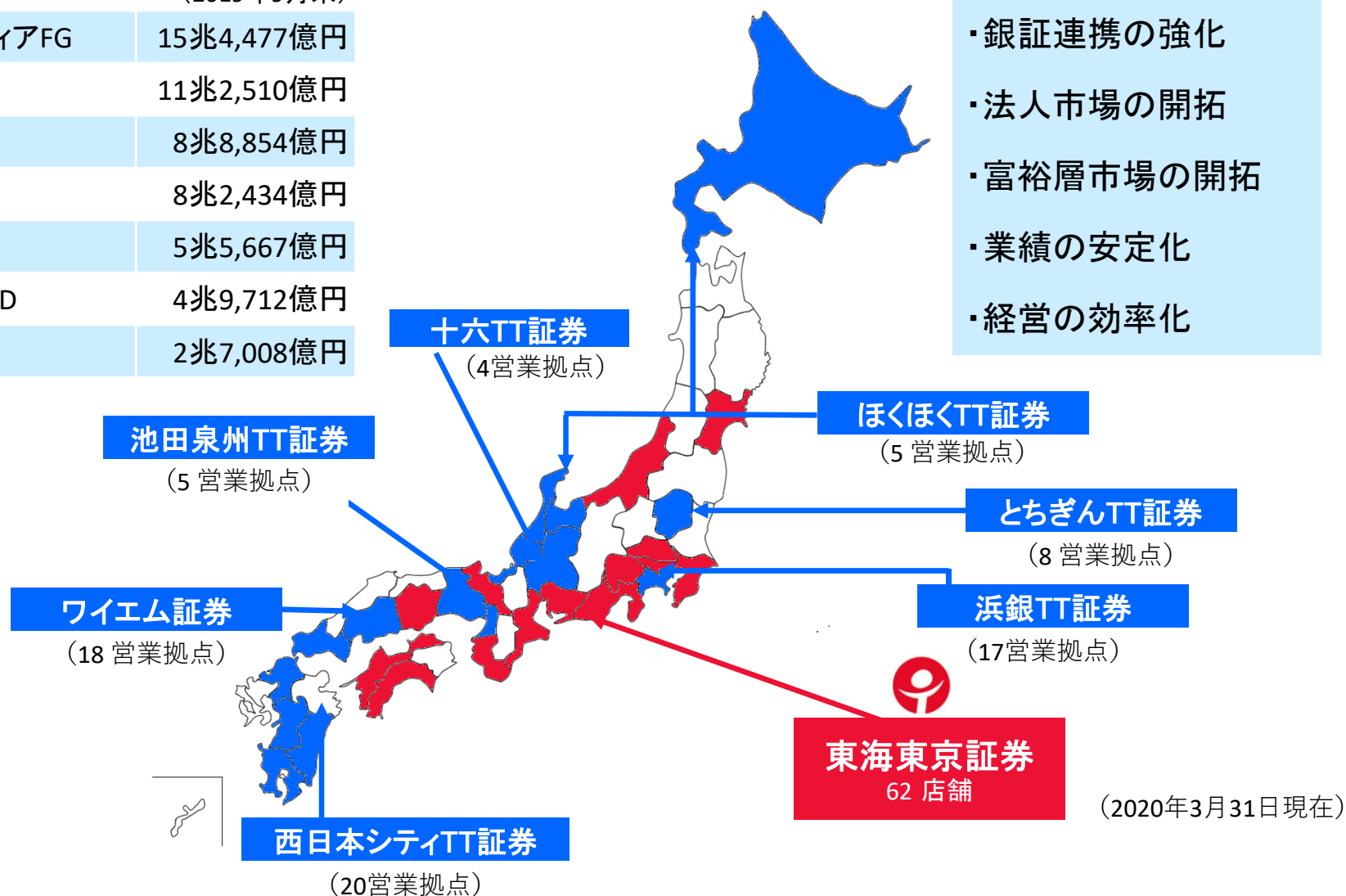
提携地方銀行の預金量

(2019年9月末)

コンコルディアFG	15兆4,477億円
ほくほくFG	11兆2,510億円
山口FG	8兆8,854億円
西日本FH	8兆2,434億円
十六銀行	5兆5,667億円
池田泉州HD	4兆9,712億円
栃木銀行	2兆7,008億円

JVの今後の業務ポイント

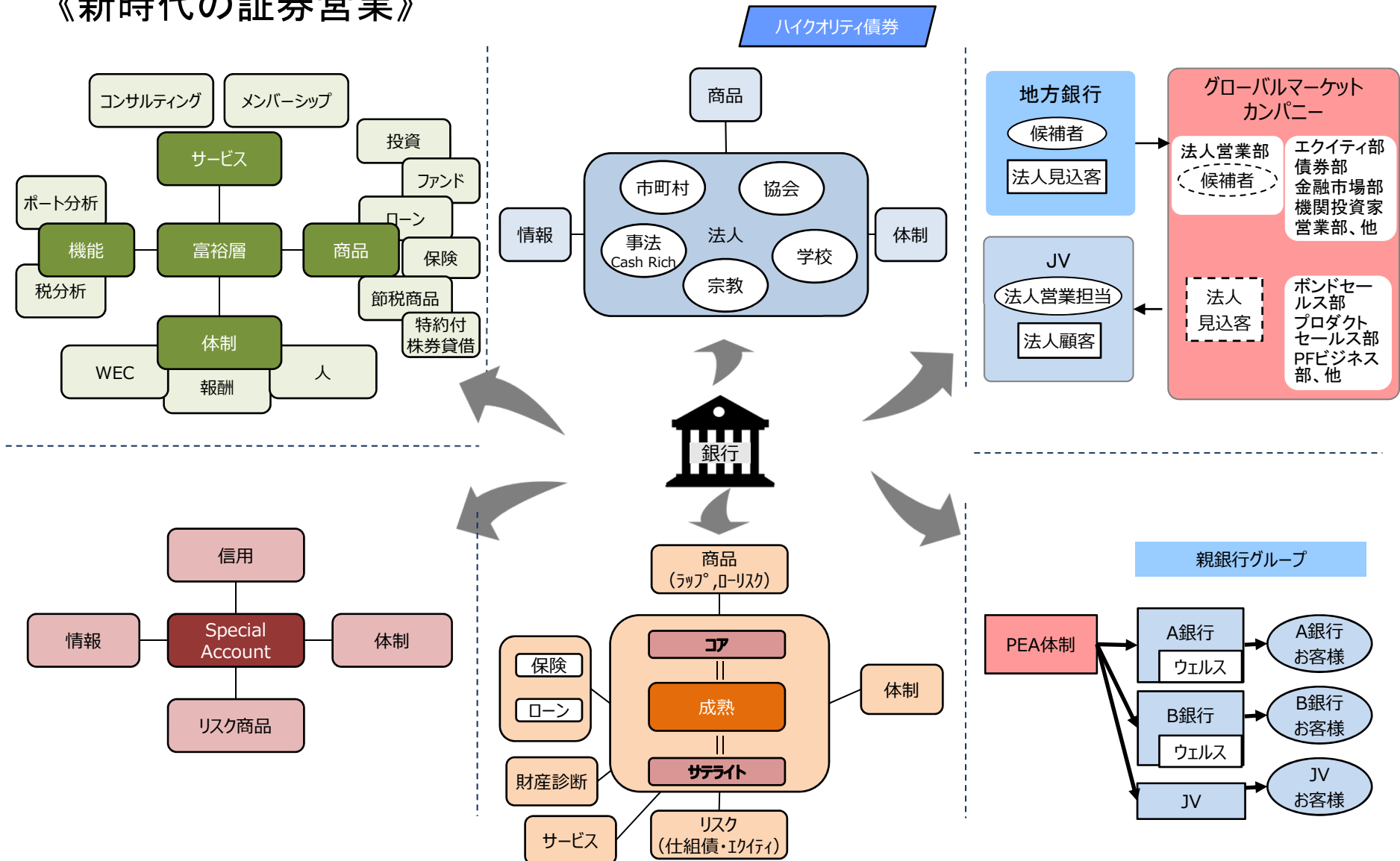
- ・銀証連携の強化
- ・法人市場の開拓
- ・富裕層市場の開拓
- ・業績の安定化
- ・経営の効率化



II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

4. 提携合併証券(JV)

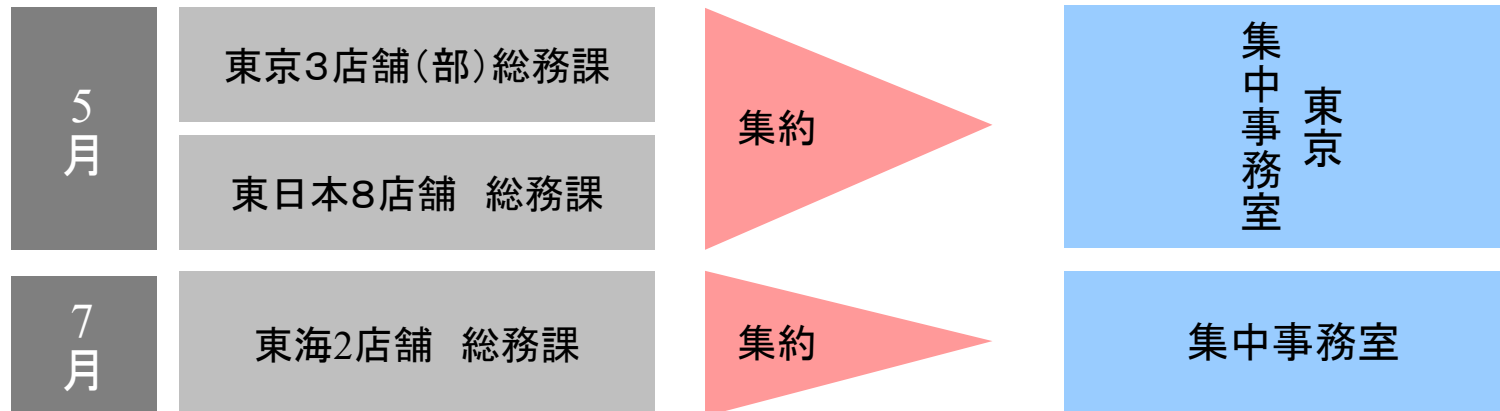
《新時代の証券営業》



II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

5. 生産性革命

・総務課の集約



総務課集約により、最終47名が人員活用人数

・RPA、BPRによる労働時間削減

東海東京証券 ノンプロフィット部門 2020年3月期上期実績: 27,780時間
下期実績: 25,042時間

II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

5. 生産性革命

・今後の施策

生産性向上プロジェクトチーム

- ・直間比率改善WT
- ・営業生産性WT
- ・グループ組織のスリム化WT
- ・関係会社再編WT
- ・経営の見える化促進WT
- ・資本の有効活用WT

事務委託費削減プロジェクトチーム

～業務の電子化、内製化、委託料率改定、等～
⇒ 今後の年間費用削減見通し 164百万円

II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

6. 商品・サービスの多様化

(連結)その他の受入手数料(半期毎)

(百万円)	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
受益証券(投信代行手数料)	2,198	2,324	2,342	2,214	2,077	1,920
ラップ口座残高報酬	516	398	285	224	166	174
保険手数料	1,096	1,625	1,478	1,762	1,513	1,650
コンサルティング手数料(M&A等)	152	587	283	547	442	517
その他	371	565	545	343	529	717
その他の受入手数料計	4,335	5,501	4,933	5,092	4,728	4,981

II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

6. 商品・サービスの多様化

《出資先の状況》

(百万円)	2019年3月期					2020年3月期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1年計	1Q	2Q	3Q	4Q	(うち3月)	1年計
FinTech ^{※1}	-	-149	-180	-187	-517	-129	-135	-147	-135	-49	-548
保険 ^{※2}	-94	12	-24	118	12	-0	82	64	140	21	286
M&Aコンサルティング ^{※3}	-28	-71	104	-86	-82	-5	36	-66	-58	-11	-94

※1 お金のデザインの持分法投資損益およびのれん償却額を合計

※2 ETERNAL、メビウスの経常損益を合計

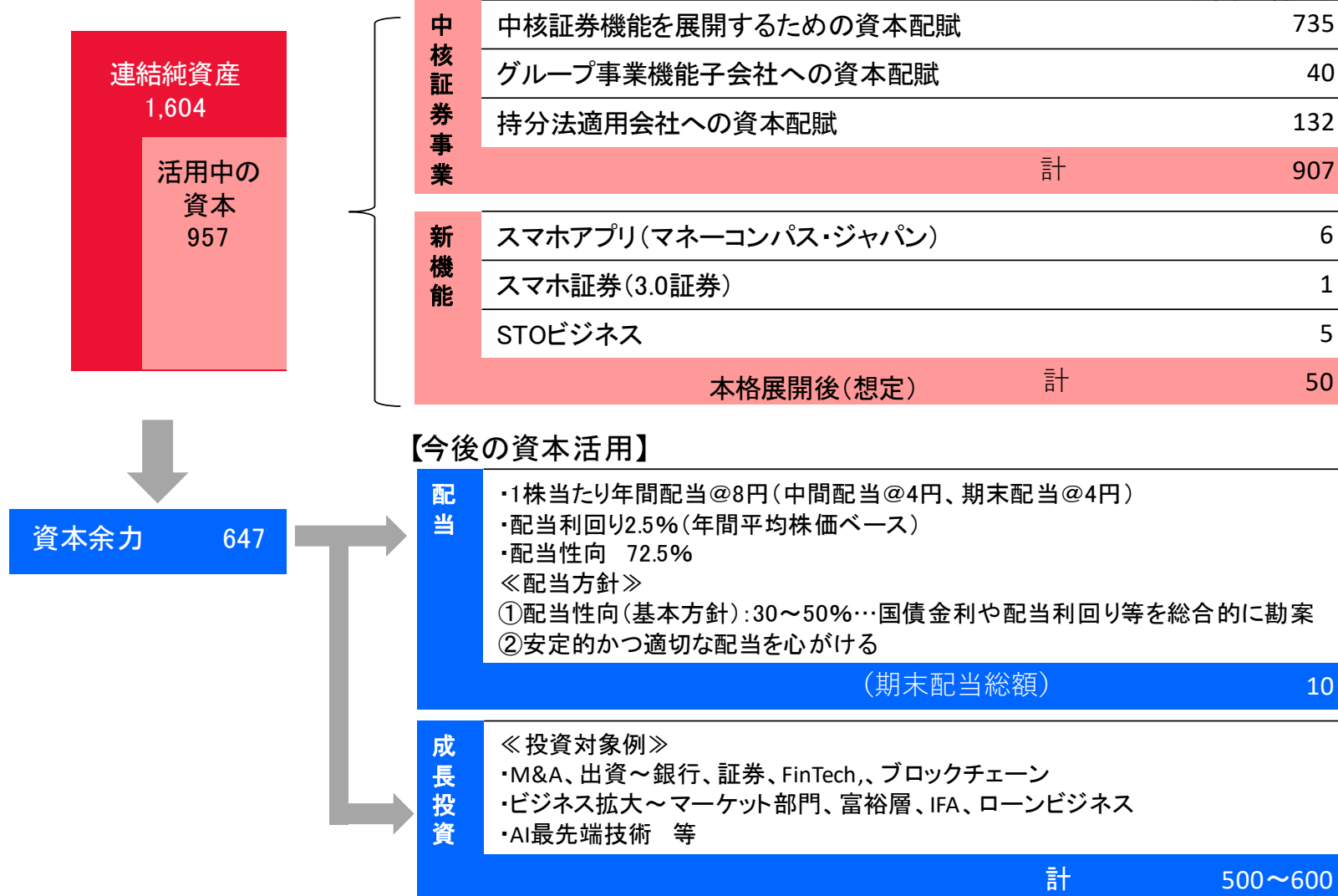
※3 ピナクル、ピナクルTTソリューションの経常損益を合計(新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言下、大口案件成約が遅延)

II. 収益構造の変化と重点プロジェクトの進捗

7. 経営計画達成に向けて

グループ資本状況(2020年3月末)

(単位:億円)

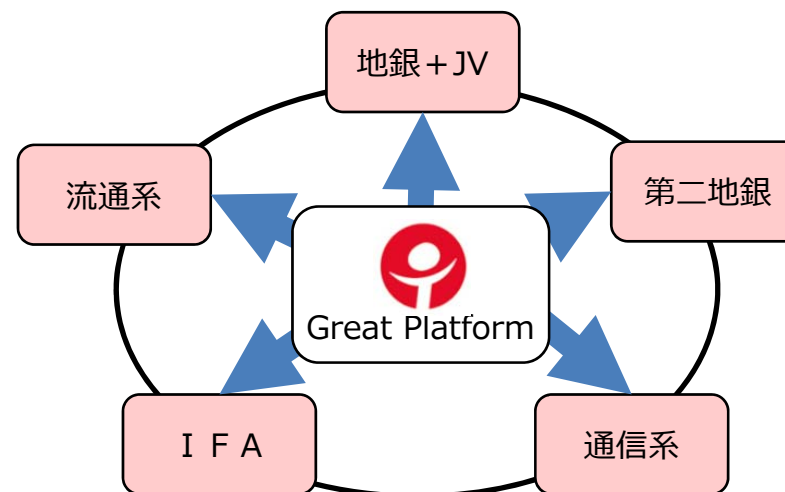
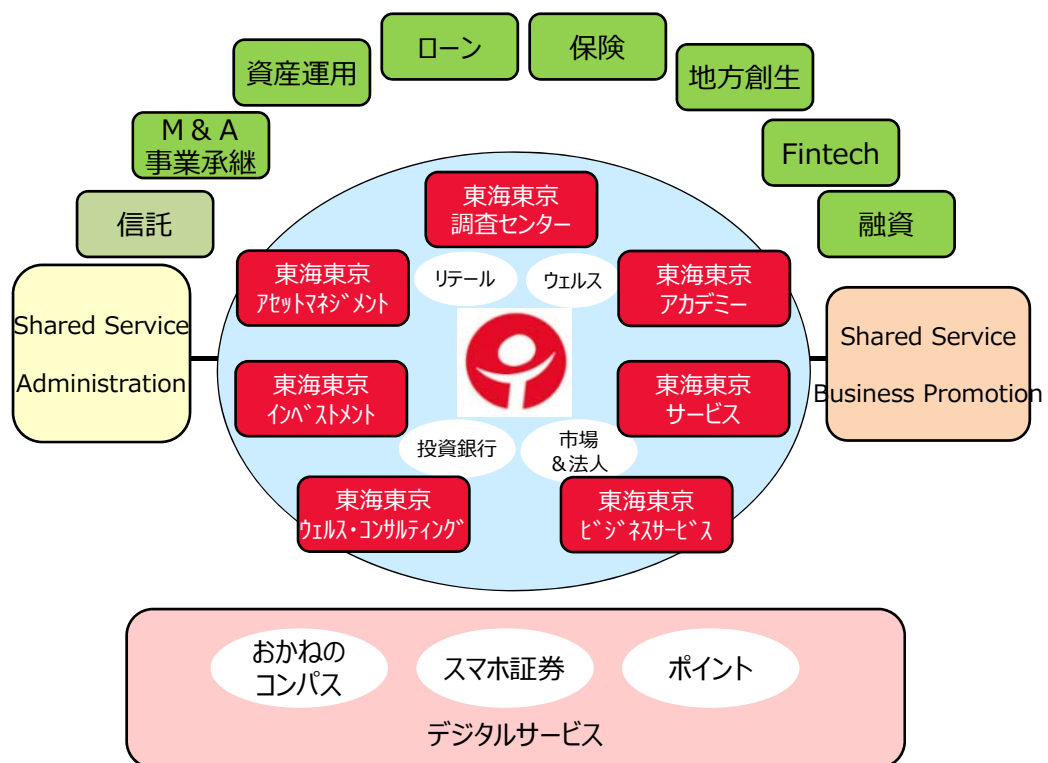


III. 戦略の推進

III. 戦略の推進

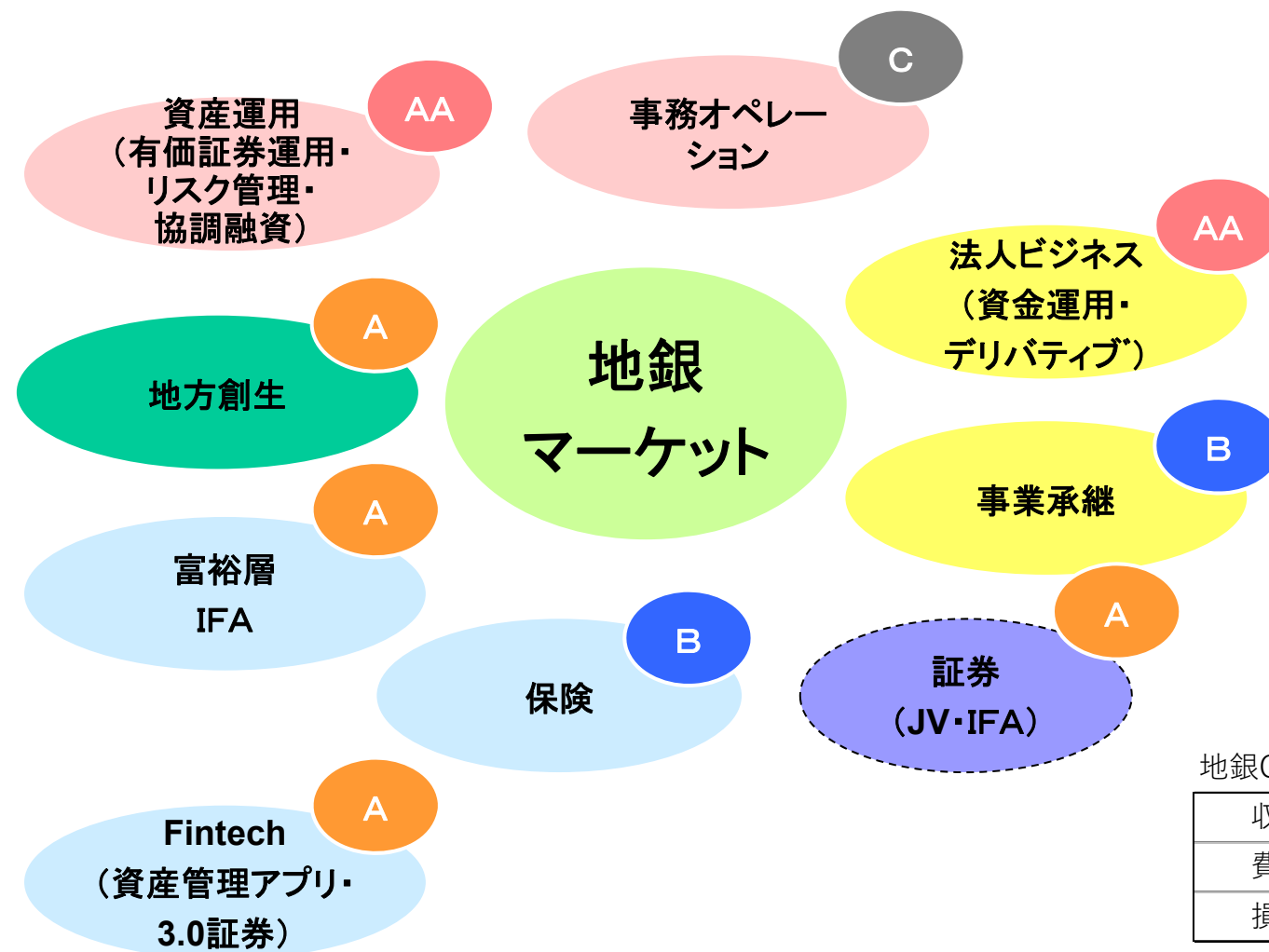
グレート・プラットフォーム

グレート・プラットフォーム システム



III. 戦略の推進

グレート・プラットフォームの方向性(地銀)



<特徴>

- ①対面ノウハウの資源 (リテール・ウェルス戦略)
- ②市場・法人ビジネスのキャパシティ
- ③デジタライゼーション
- ④自己還流システム
- ⑤理念・カルチャー
ー共考・共進・共生ー
ー地についての地方感覚ー

地銀GPF (財務戦略) ミニマムターゲット

収益	100 (40)
費用	60 (25)
損益	40 (15)

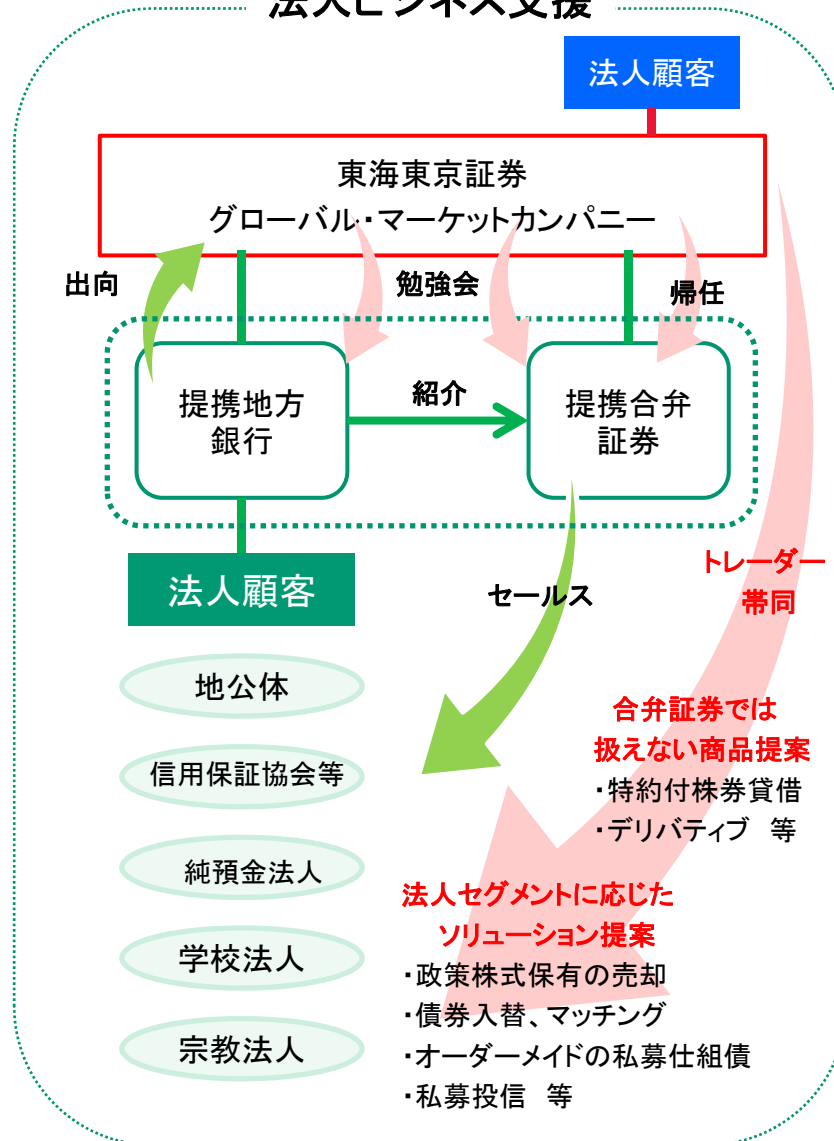
注) 単位: 億円、5年累計、() 内は5年目

Fintech、証券関連除く

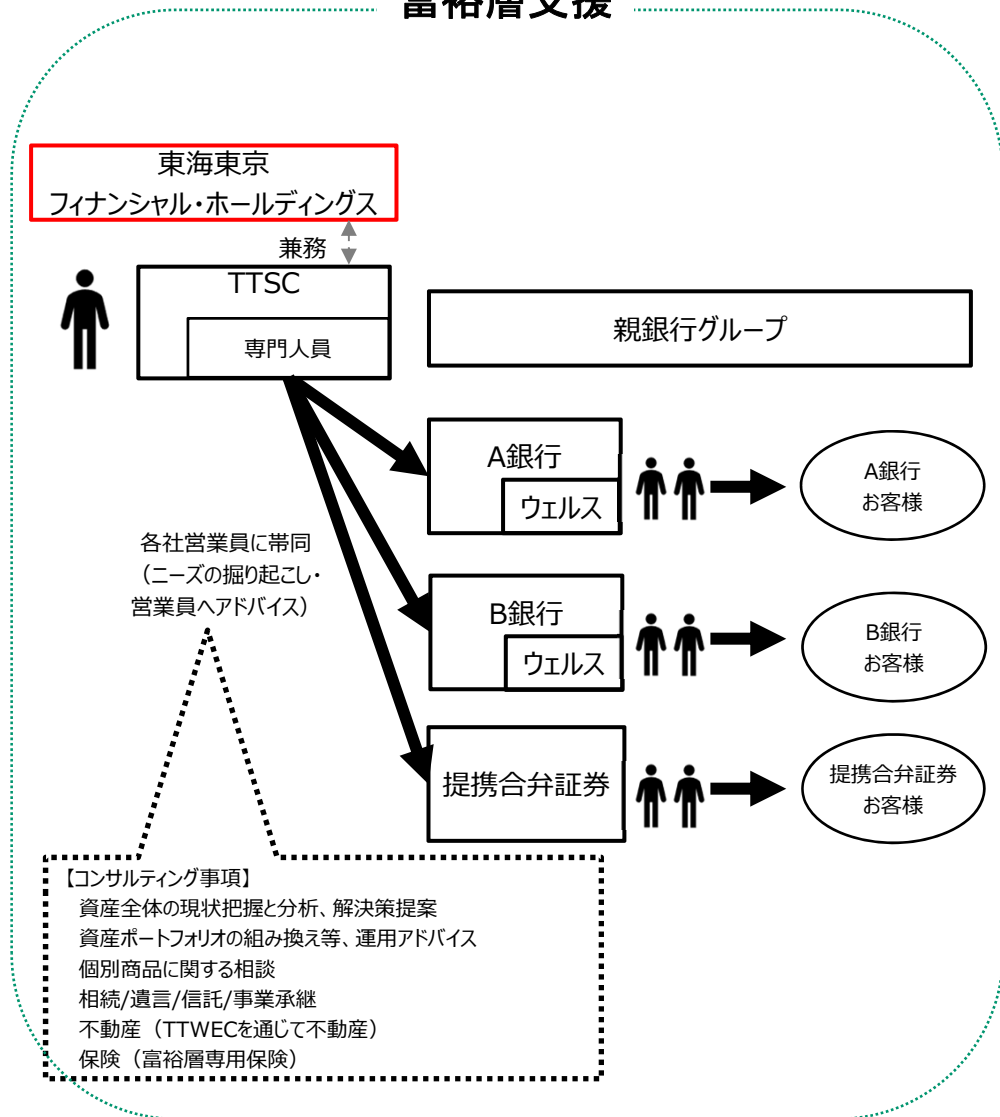
III. 戦略の推進

法人ビジネスと富裕層支援

法人ビジネス支援

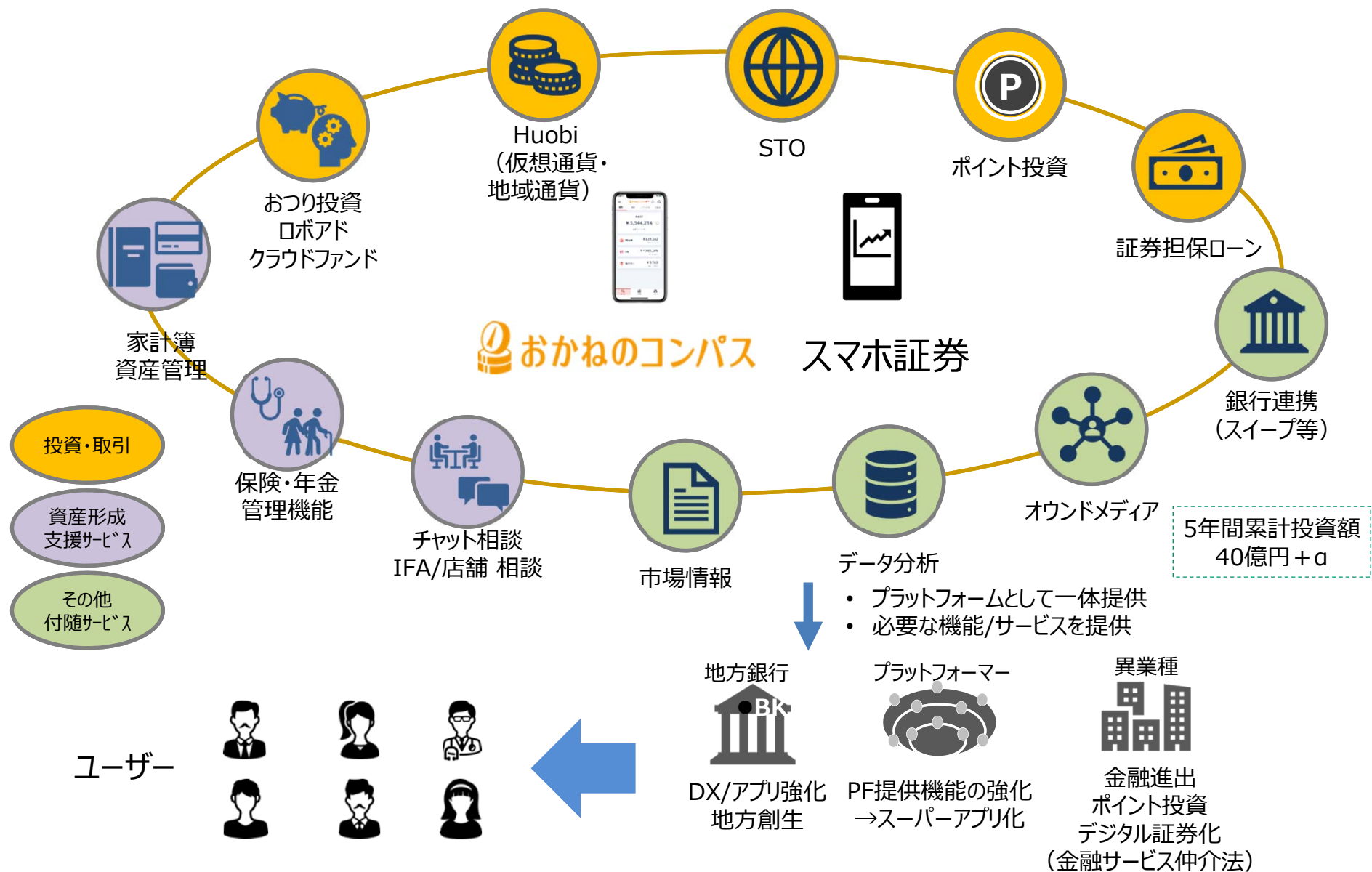


富裕層支援



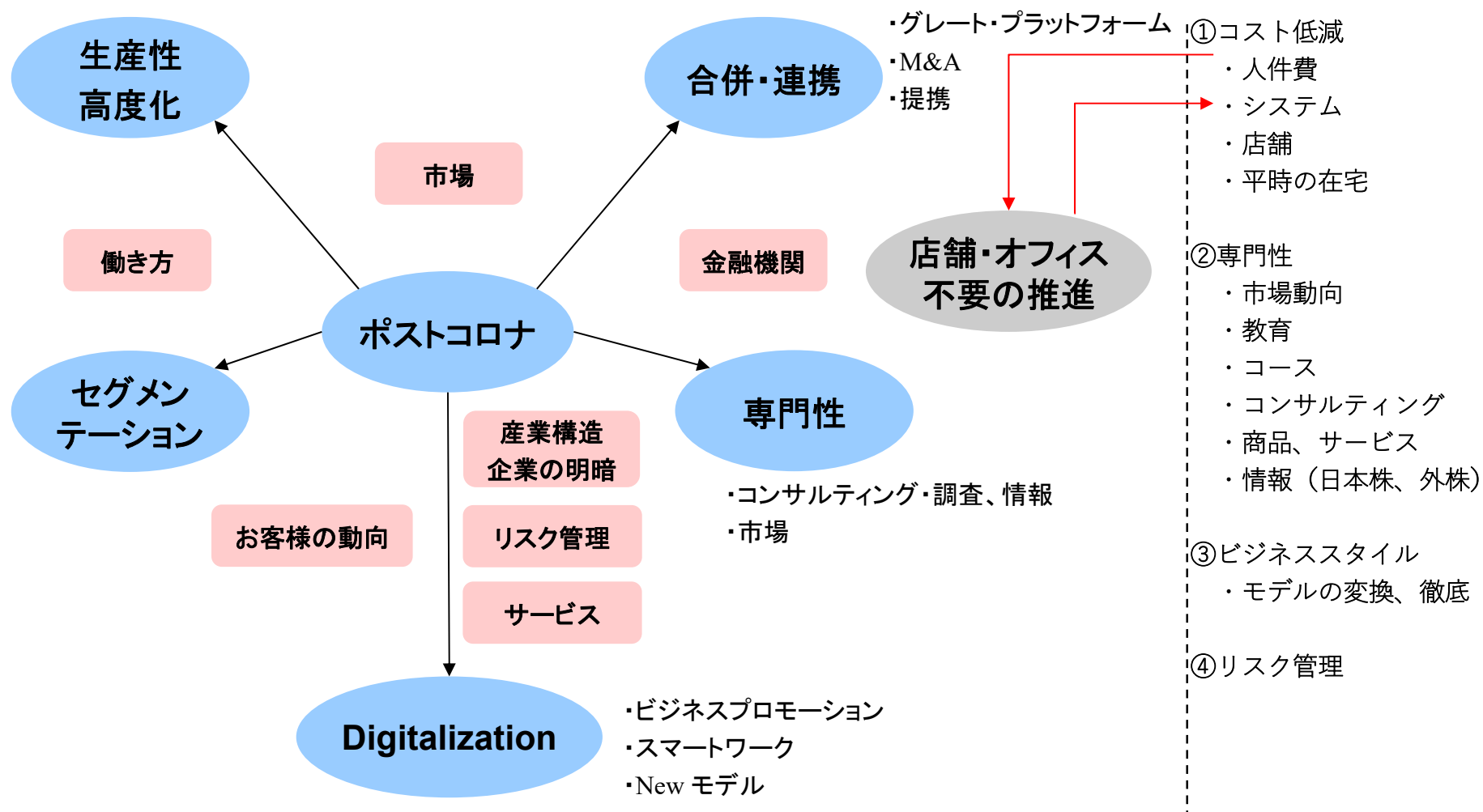
III. 戦略の推進

フィンテック・プラットフォーム



III. 戦略の推進

ポストコロナの経営テーマ



MEMO

問合せ先

東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社 広報・IR室

TEL: 03-3517-8618 FAX: 03-3517-8314

E-mail: fh_ir@tokaitokyo-fh.jp

本資料は、最新の業績に関する情報の提供を目的とするためのものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。